KIRIN

よろこびが
つなぐ世界へ

Joy brings us together

プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025

# キリングループのプラスチック資源循環に関する取り組みについて

2025年10月10日
キリンホールディングス株式会社
CSV戦略部　池庭　愛

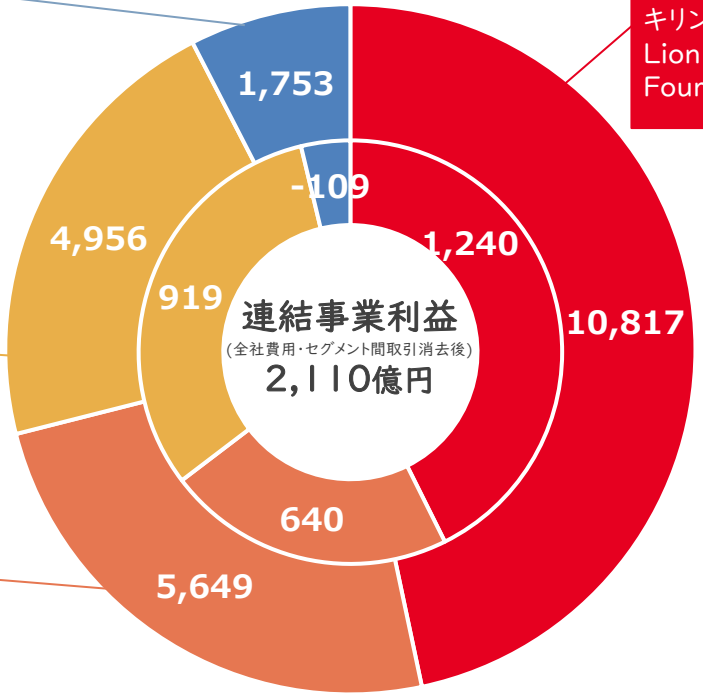
# キリングループ概要（2024年12月時点）

- 酒類・飲料・医薬、ヘルスサイエンス事業に広がる、ユニークな事業ポートフォリオを構築

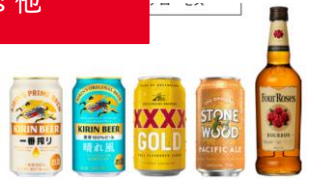
**ヘルスサイエンス事業**
FANCL
Blackmores
協和発酵バイオ 他

**医薬事業**
協和キリン

**飲料事業**
キリンビバレッジ
Coke Northeast 他




**酒類事業**
キリンビール
Lion
Four Roses 他



（グラフ内単位：億円）

© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】（開示範囲）

# キリングループ環境ビジョン2050

● キリングループ環境ビジョン2050「ポジティブインパクトで、豊かな地球を」

## 容器包装を持続可能に循環している社会

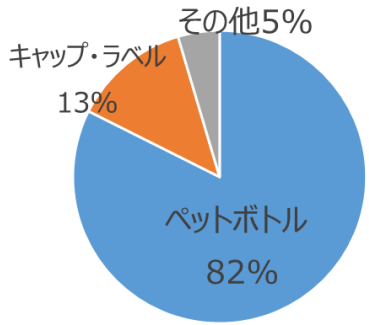
**持続可能な容器包装を開発し普及します**

- リサイクル材やバイオマスなどを使用した、持続可能な容器包装にします
- 新容器・サービスの開発を目指します

**容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します**

- 日本国内のリサイクルシステム構築を牽引します
- 事業展開地域の資源回収やリサイクルインフラ整備に貢献します

### ●グループ全体でのプラスチック容器包装別使用割合




© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】(開示範囲)

# キリングループ プラスチックポリシー（2019年2月7日リリース）

## PETボトルの資源循環を推進します。

キリングループが提供しているプラスチック容器包装等のほとんどは飲料ボトル用PET樹脂が占めており、その一部にリサイクル樹脂を使用しています。キリングループは、PETボトルの資源循環を推進するため、日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を2027年までに50%に高めることを目指します。

また、PETボトルの資源循環を推進するためには、良質な使用済PETボトルを効率的に回収することが不可欠です。キリングループでは、国や地域、業界団体等と協働しながら、良質な使用済PETボトルの効率的な回収・利用システムの構築を積極的に進めていきます。

## ワンウェイプラスチックの削減および他の素材への代替に努めます。

プラスチックごみの多くは、ワンウェイプラスチックと言われています。キリングループは、グループ各社が提供するワンウェイプラスチックの削減に努めるとともに、他の素材への代替にも取り組んでいきます。

## PETボトル原料の持続性向上を目指します。

キリングループでは、これまでも環境負荷軽減の観点からPETボトルの軽量化を継続的に進めてきました。今後もより一層の軽量化を目指していきます。

また、PETボトル原料の持続性向上のため、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来のPETボトル樹脂導入の検討も進めていきます。

© Kirin Holdings Company, Limited

# プラスチック・サーキュラー・チャレンジのコミットメント達成状況

| プラスチック・サーキュラー・チャレンジコミットメント項目 | | 達成状況 |
|---|---|---|
| 1-1.取り止め | 必ずしも必要のないプラスチックの2025年フェーズアウト目標と進捗 | ラベルレス商品の拡充 |
| 1-2.段階的削減 | 容器包装・使い捨てプラの2025年の削減目標と進捗 | 容器包装・使い捨てプラスチックの使用量を年間6,227トン削減（キリンビバレッジ、メルシャン計、2024年実績）<br>・キリンビバレッジ：6,055トン削減；ペットボトルの軽量化、ラベル薄肉化など<br>・メルシャン：172トン；ワイン用ペットボトルの軽量化、紙パックワインの外装フィルム廃止など |
| 1-3.代替素材の持続可能性 | 代替素材を使用する場合の持続可能性担保 | ・一番搾りの製造過程で発生する副産物をファンケルの化粧品包材に活用<br>・スポーツイベント等で提供するプラスチックコップを森林認証の紙コップへ変更 |
| 2./3-1.リユース導入とデザイン | リユースの2025年導入目標と進捗、設計事例 | ・工場見学や試験室での使い捨てプラカップをグラスへ変更 |
| 3-2.リサイクルデザイン | リサイクル可能な設計の計画と事例 | ・「環境に配慮した容器包装等設計指針」によるリサイクル可能な容器包装デザインの継続<br>・業界統一仕様の新機能リサイクルボックス累計20,000台以上を設置（2024年末実績） |
| 4.リサイクル素材 | リサイクル素材2025年使用目標と進捗、事例 | ・日本国内におけるペットボトルへのリサイクルPET樹脂使用率：36%(2024年実績)<br>・酒類ペットボトルへのリサイクルPET樹脂導入開始<br>・飲料キャップの化粧品容器キャップへのマテリアルリサイクル開始<br>・ビール用ペットボトルキャップの水平リサイクル実証実験を実施 |
| 5.ステークホルダーとの協力 | 幅広いステークホルダーとの具体的協力事例 | ・自治体や事業体、リサイクラーを巻き込んだ動静脈連携の水平リサイクル回収スキームの構築<br>・業界横断の非食品用途PET素材の食品用途へのケミカルリサイクル実証実験を実施 |

# 1-1. 必ずしも必要のないプラスチックの取りやめ/1-2. 段階的削減

● ラベルレス商品の拡充・ペットボトルの軽量化、ラベル薄肉化等により、
キリンビバレッジ・メルシャンにて年間計6,227トンのプラスチック使用量を削減。

ラベルレス商品の拡充

ペットボトルの軽量化により
プラスチックを従来仕様の15%削減

ラベルの薄肉化により
プラスチックを従来仕様の44%削減

© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】(開示範囲)

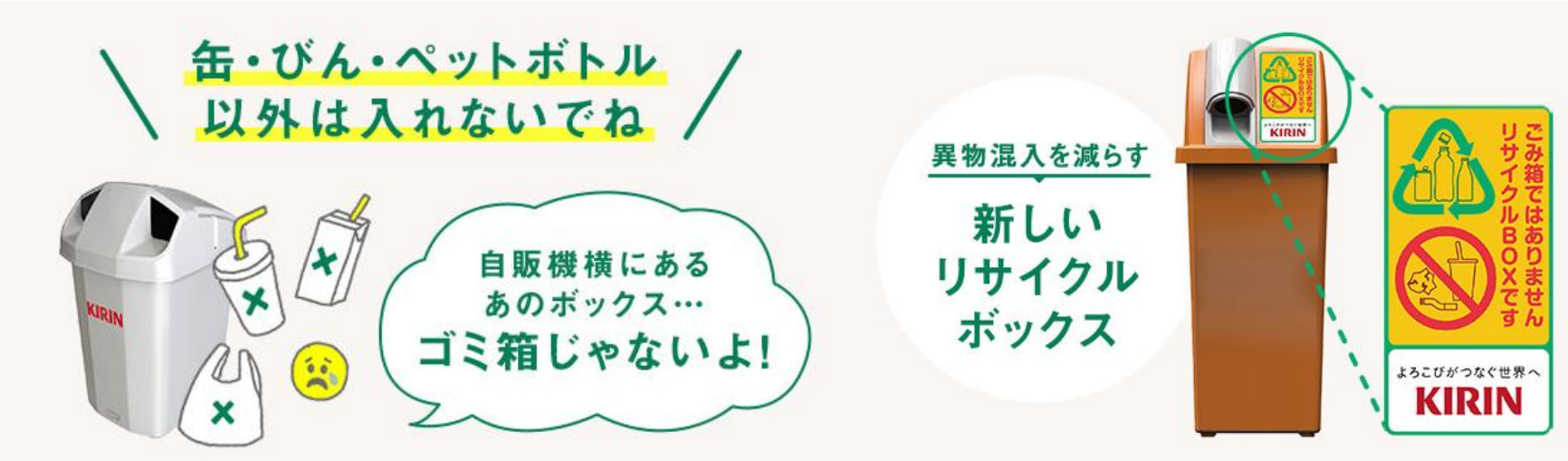
# I-3. 代替素材の持続可能性

● ビール類製造時の副産物を活用したパルプモールド製ボックス入り化粧品セットを販売（ファンケルとの共同開発）

© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】（開示範囲）

# 3−2. リサイクルデザイン

- 「環境に配慮した容器包装等設計指針」によるリサイクル可能な容器包装デザインを継続
- 業界で統一したデザインの新機能リサイクルボックスを累計2万台以上設置(2024年末)



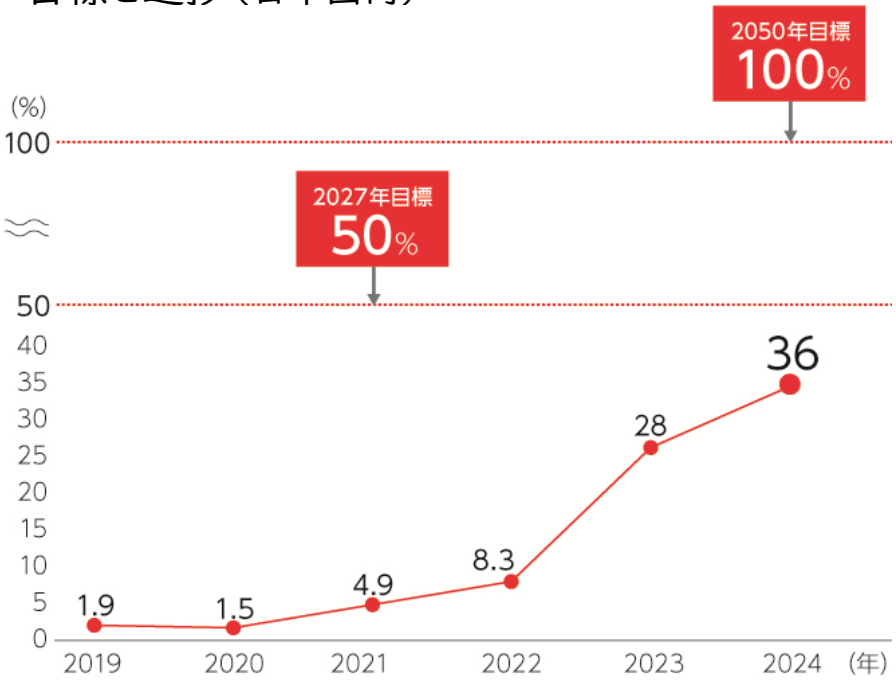

© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】(開示範囲)

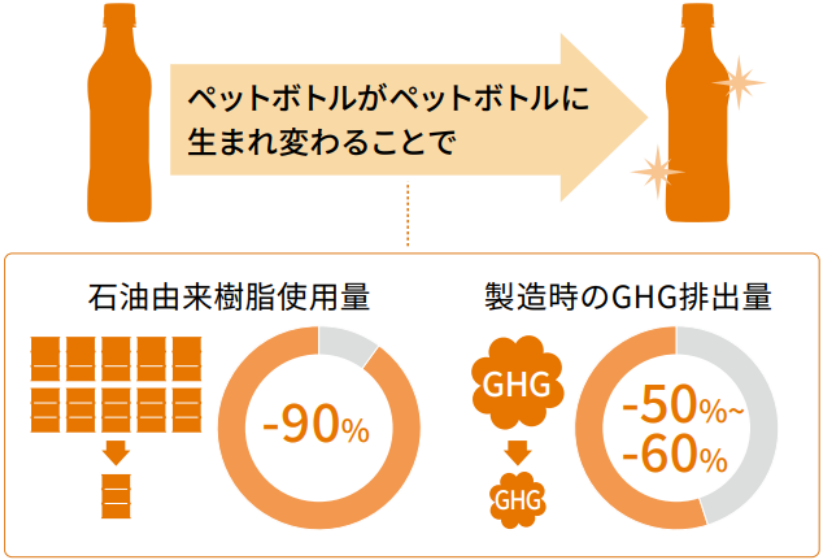
# 4. リサイクル素材

● ペットボトルへのリサイクル樹脂使用率は、2024年末時点で36%を達成（日本国内）

キリングループのリサイクルPET樹脂使用率

目標と進捗（日本国内）



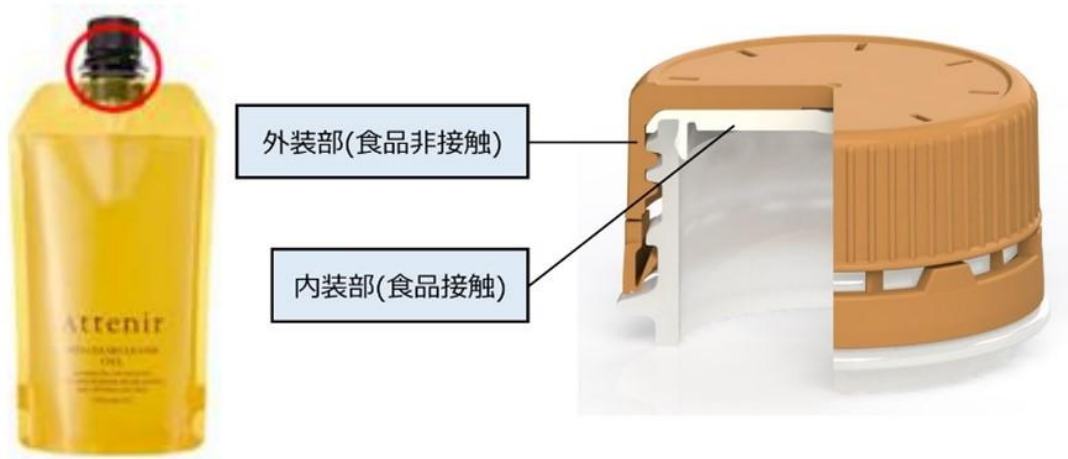



# 4. リサイクル素材

- 飲料・酒類の工程で発生する廃棄キャップのリサイクルを実施

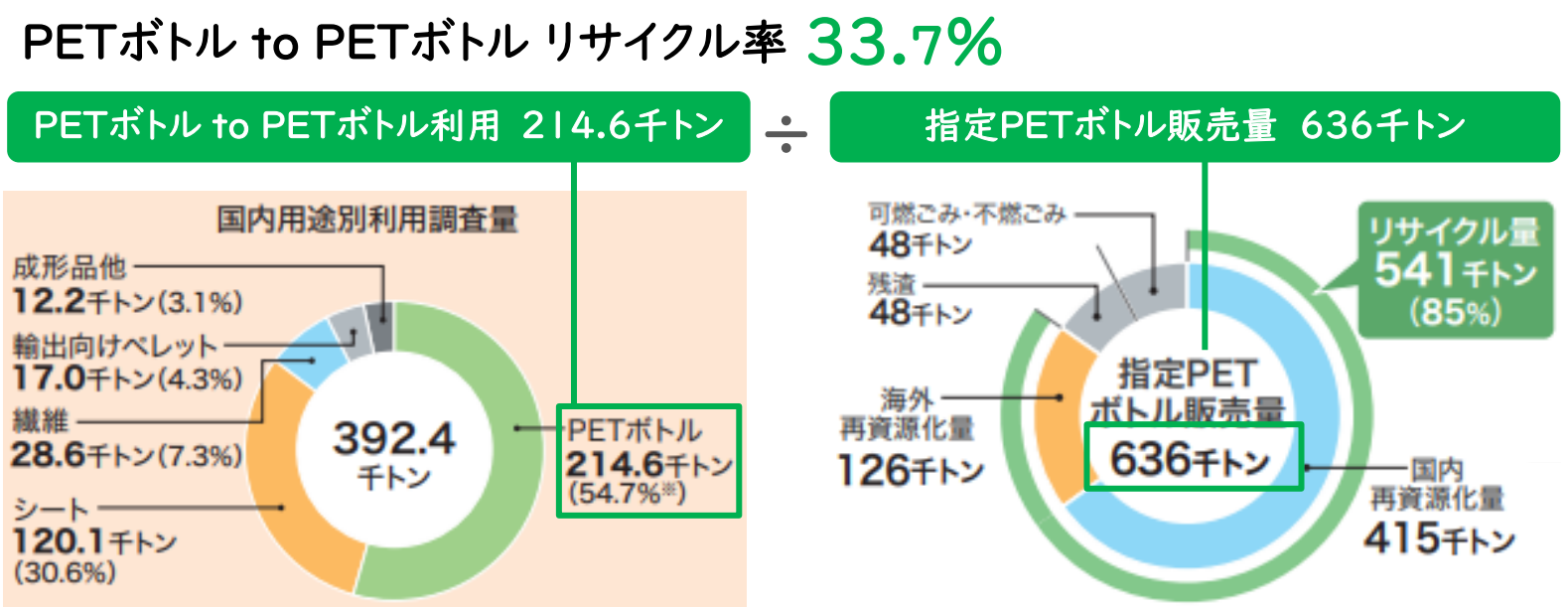
製造工程で発生する
清涼飲料廃棄キャップの化粧品容器への再生利用

ビール用ペットボトルキャップの水平リサイクル
（食品非接触部材）




© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】（開示範囲）

- 清涼飲料業界を挙げて、ボトルtoボトルを推進
- ボトルtoボトル＝水平リサイクル率は33.7%（2023年）

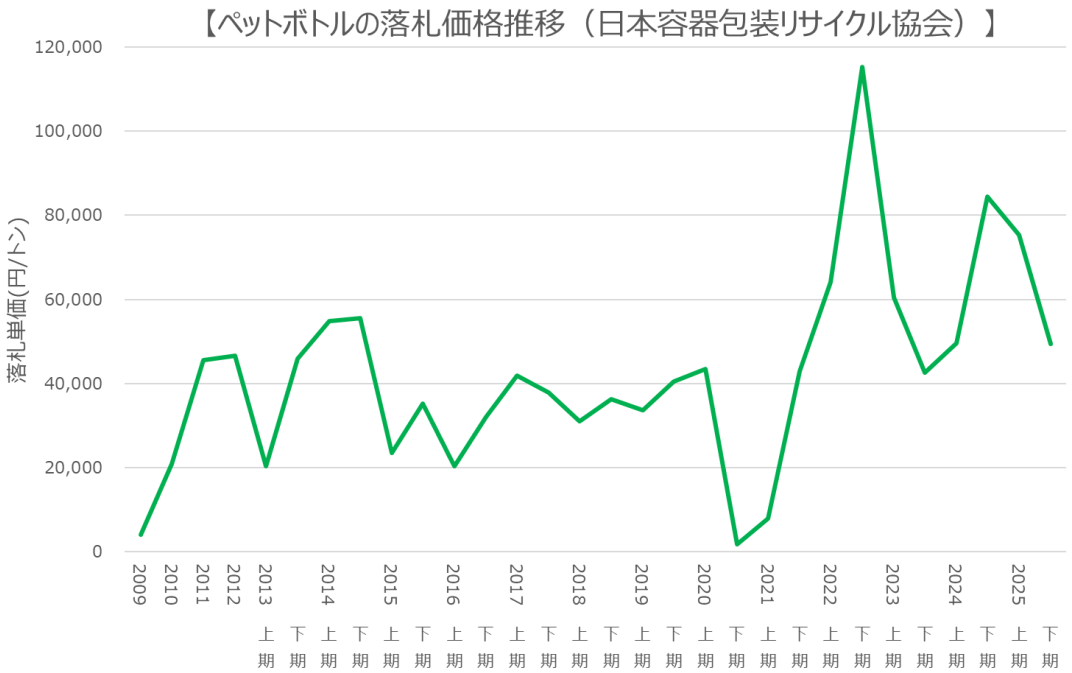



出典：PETボトルリサイクル推進協議会 「PETボトルリサイクル年次報告書2024」 https://www.petbottle-rec.gr.jp/nenji/2024/2024.pdf

© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】（開示範囲）

- 使用済みペットボトルの落札価格は乱高下しており、安定した価格でリサイクルPET樹脂を調達することが難しい

＝リサイクル樹脂を使うことに対する事業への経済的影響度の見通しが立てづらい状況

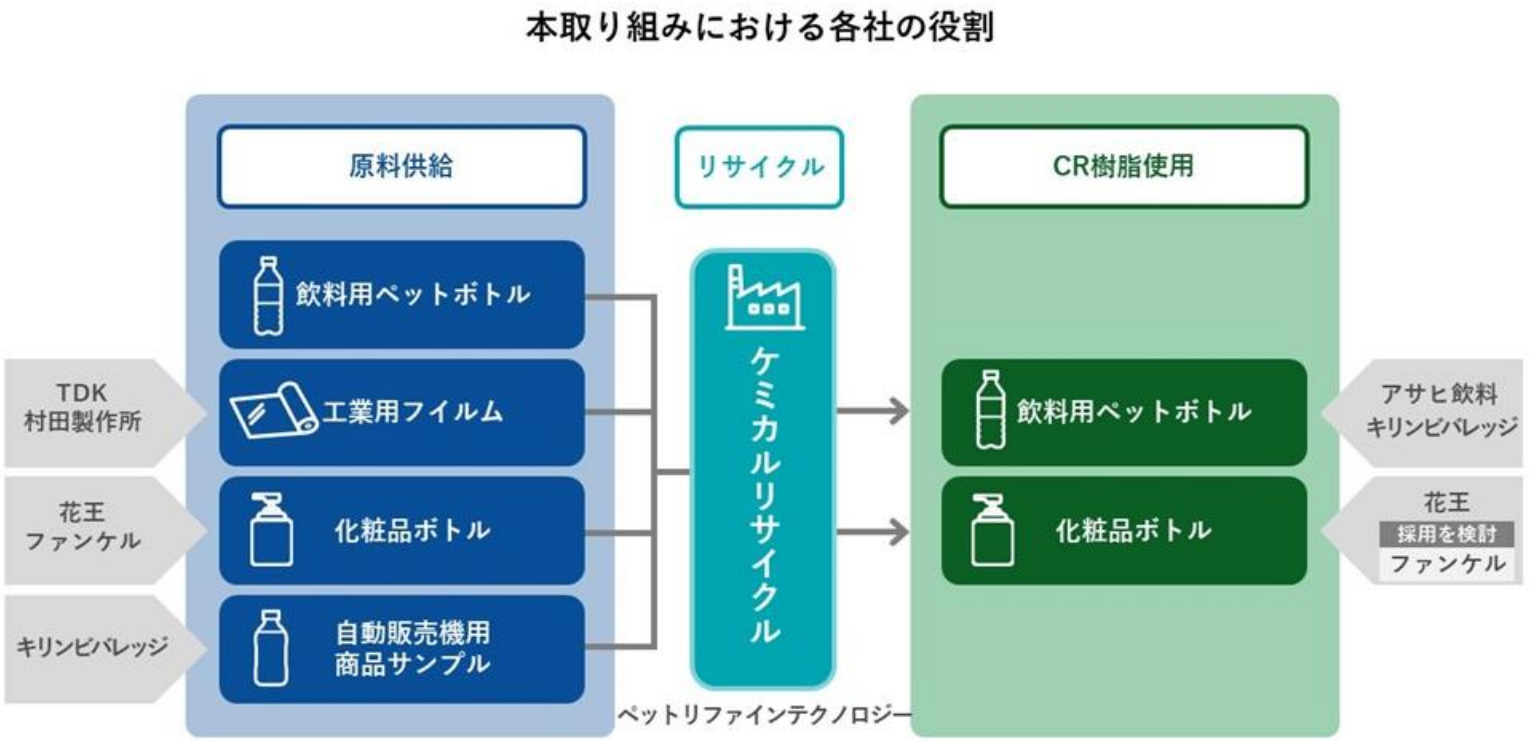



公益社団法人 日本容器包装リサイクル協会
WEBサイト 落札単価と落札量の経年推移
より作成

© Kir

# 5. ステークホルダーとの協力

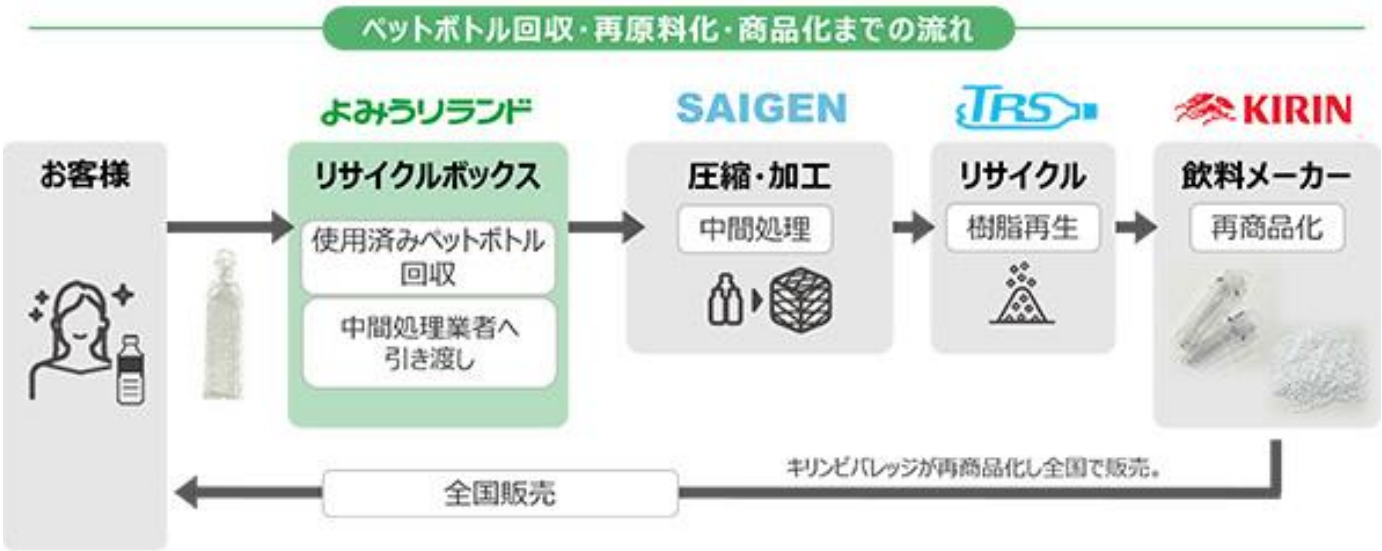
- 業界横断の非食品用途PET素材の食品用途へのケミカルリサイクル実証実験を実施




© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】(開示範囲)

# 5. ステークホルダーとの協力

- 中間処理・リサイクラーを巻き込んだ動静脈連携スキームを構築し、使用済みペットボトルの水平リサイクルを促進




© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】（開示範囲）

# 6. プラスチック・サーキュラー・チャレンジの活動を振り返って

- プラスチックの資源循環・持続的な利用には、個社の努力だけでなく、複数社で連携する活動も重要。
  - ・個社の活動・・・ボトルの軽量化、ラベルレス、リサイクル樹脂使用率の向上
  - ・複数社の活動・・・水平リサイクル

- これらの活動は、経済合理性が伴わなければ持続できない。

- プラスチック・サーキュラー・チャレンジへ参画する各社とミーティングを重ねる中でも、いかに経済合理性を確保するかが各社共通の悩みとして共有された。

- ペットボトルの例を挙げると、消費者・回収者・メーカー・流通業者それぞれに負のインセンティブが存在し、適切なコスト負担をなされていない現状。

- 今後の資源循環を進展させる上で、社会全体でのコスト分担と、それを促す制度的インセンティブの整備が必要と考えに至り、10/1の政策提言に参加した。

© Kirin Holdings Company, Limited 【機密性区分】（開示範囲）

よろこびがつなぐ世界へ

Joy brings us together